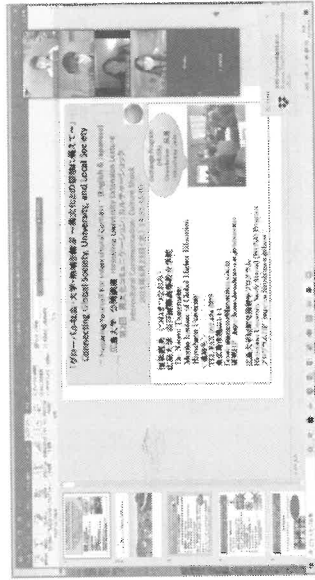


公開講座にHUSA留学生・大学院生が参加 グローバル社会・大学・地域を結ぶ (広島大)

広島大学では、英語と日本語によるオンラインでの公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ〜異文化との接触に備えて〜」(担当：恒松直美准教授)を去る6月16日と23日にそれぞれ開講した。広島大短期交換留学プログラム(HUSA)留学生と「異文化間理解の社会理論と実践」(大学院人間社会科学研究所)を受講している大学院生が参加した。



HUSAプログラムからは、英国カーディフ大から広島大に留学しているジャック・バリーさんとHUSA AC(大学交換留学コンソシアム)からの留学生マデリン・ハンゼルマンさん(米国在住)が参加。コロナ禍での異文化体験や異文化間での礼儀の相違に関する見解など、留学生の貴重な体験を参加者と共有することができた。

オンラインの公開講座には、全国からさまざまな異文化体験を有している人々が参加。留学生が日本留学を通じて感じていることなど生の声を聞きつつ、異文化間コミュニケーション・カルチャーショックについて相互の体験を共有し共に考える場となった。

同大では、地域住民、留学生、広島大学生がつながる異文化理解の場を今後も発展させる方針だ。



東北大、短期学生交流プログラムを実施 世界6大学の学生がオンラインで講義に参加

東北大学グローバルラーニングセンター(GLC)は、2021年度2期目となる短期学生交流プログラム「Tohoku University Japanese Program (TUIJP) Online」を5月27日から6月16日の3週間実施した。

TUIJP第2期では、シンガポール、中国、台湾、フランス、イタリア、マレーシアの6大学から中級以上の日本語能力を持つ学生8名が参加。東北大学生によるサポートを受けながら、実践的日本語を学び、日本社会・文化に関する講義にも参加し、理解を深めた。

6月16日には最終発表会が行われ、各国の学生全員が学習成果を日本語で紹介。また、大手流通企業の国際進出をモデルにしたSWO

T分析で優秀賞を獲得したチームによるプレゼンテーションが行われた。

参加者からは、「東北大学の学生との交流を通じて、日本と自国の学生文化の違いを知ることができた」「日本語の授業は難しくついていくのが大変だったが、頑張ったことで自分の日本語力が伸びたのを実感できた」「将来、東北大学に留学したい」とコメントした。

また、参加者をサポートした東北大学の学生からは、「活動を通じて自身にも多くの学びが得られた」「留学への関心が高まった」などの感想が寄せられた。

6月21日からは、初級レベルの日本語学習者を対象として、4週間のプログラムを実施している。

データサイエンスが描き出す『モノづくり』の未来シナリオ 統教研、産学連携シンポジウムを開催

統計数理研究所では、産学連携シンポジウム「データサイエンスが描き出す『モノづくり』の未来シナリオ」を去る6月17日に開催した。『オープンハウス2021』の事務局員らによる講演が行われ、

さらに講演後は、壇所長がモデレーターを務める

